ユズリハ・・・

あけましておめでとうございます。

お正月といえば、年が改まる＝おめでたいと考えるのが一般的となりましたが、本来、お正月とは１年間家を守ってくれるその年の神様「お正月さん（年神様／歳徳神）」をお迎えする行事です。門松やしめ縄は、神様を迎えるための準備であり、雑煮は、神様にお供えした餅のお下がりをいただくという意味です。

ところで、この神様にお供えする餅を「鏡餅」と言いますが、なぜその名がついたのでしょうか。

それは、鏡餅は神様が食べるものですから、お正月中の魔を跳ね返す鏡の意味があります。昔の鏡は円形であり、同時に、人の魂も模して丸餅にしています。また、大小の餅を重ねるのは、陰（月）と陽（日）を表した大小２つの餅により、福徳を重ねることになります。

そして、鏡餅の飾り方ですが、半紙を敷いた三宝（お餅をお供える四角い台）の上に、ユズリハ、ウラジロなどを敷き、鏡餅の上に昆布とダイダイ(蜜柑)を載せるのが一般的とされています。

そこで、やっと今月の「花便り」の本題に入ります。

ユズリハの名前の由来は、新しい葉が出てきて初めて古い葉が落ちる事から「譲る葉っぱ」つまり「譲葉」となりました。このことが、親(古い葉)は、子ども(新しい葉)が成長する（出そろう）のを待ってあとを譲る（葉が落ちる）、つまり、家系が途切れることなく続いていくことの象徴となりました。しかし、この現象はユズリハに限ったことではなく、クスノキなど常緑樹の特質と言えるものです。にもかかわらず、ユズリハが取り立てておめでたい樹木とされるのは、葉が大型で美しく、また新旧の入れ替わりが急激で目立つからでしょう。

加えて、枕草子には、

ゆずりはの　いみじゅうさやかにつやめき　茎はいと赤く　きらきらしく見えたるこそ　あやしけれど　いとおかし

と書かれていますが、緑の葉と赤い葉柄のコントラストの美しさも理由の１つでしょう。

さらに、葉の主脈が太く弓に似ていることから、弓弦葉（ゆずるは）の名がついたとも言われますので、このことも武家には堪らない縁起物ということになります。

ちなみに、このユズリハは、８号棟の各エントランス脇に植えられていますが、幹を大胆に選定され、丈がかなり小振りになりました。

ウラジロは、シダ植物の一種で、しめ飾りにも用いられます。その名のとおり葉の裏が白く「後ろ暗いことがないように」ということや、白が「長寿」を連想させるからです。昆布は、「子生婦」の当て字もあるように、子孫繁栄の願いが込められています。「家族皆がよろコンブように」との表現もしばしば耳にします。ダイダイは、家が代々栄えるといったことと冬場の貴重なビタミン源として、正月の縁起物には欠かせません。

お節もそうですが、１つ１つのものに願いをこめる日本独自の感性が見え隠れします。

最後に、私の大好きな児童文学に「まえがみ太郎」（松谷みよ子著）がありますが、この作品の冒頭、お正月さんは１枚のユズリハに乗って登場します。この東映アニメは、ジブリ・シリーズに勝るとも劣らない最高傑作です。また、６年生の国語の教科書には、河井酔茗の「ゆずり葉」という素敵な詩が掲載されています。機会があれば、お子様・お孫様にお勧めください。